



4. 相次ぐ倒竹、落石による車両破損が後をたたないことから、社員およびお客さまの安全を確保するための具体的な対策を講じること。

(回答) 当社は安全を経営のトッププライオリティと位置づけ、安全性の向上に継続して取り組んでいる。なお、伐採や徐行運転など必要な対応を行っているところである。

(会社：倒竹、落石に対する具体的な安全対策について)

- ・倒竹： 倒竹専用の予算を立てているので、エリアの社員の声を聞きながら「倒竹ネット」を設置。
- ・落石： 落石検知センサーと策を設置。そして、列車の徐行運転が対策である。

※落石センサーの動作確認は2年周期で行っており、2023年11月に行っている

(9月15日、常陸大子～袋田駅間で発生した落石について)

- ・今回の落石については、木が倒れた事により、土・石を掘り上げた事によって落石が発生している。
- ・発生場所は、国の用地内であった。
- ・会社としては、『落石に対して、策で落ちる力を吸収していることで、健全に落ちているので、策としての役割を果たしている』という認識である。**(落石に対して、すべてを止めるという事は出来ない)**
- ・センサーについては、小さいモノも把握できる様に今以上により良いモノにしていく。

組合：「落石を発生させないために」が重要である

会社：当該の場所は国の用地であるので、林野庁と会社とで議論は行っているが、費用の問題があり、なかなか議論が進んでいかない。継続して議論を行う。

組合：車両に対する安全については？

会社：車両のガラスは割れにくいモノ。仮に割れても飛び散らない様になっている。車両の強度については、今後、検討していく事にする。

5. 倒竹、倒木、落石により運転不能となった場合の早期復旧に向けた体制を確率すること。

(回答) 鉄道運転事故、輸送障害及び安定輸送に影響を及ぼす災害が発生した場合は、運転事故等復旧要領に基づき対応を行っているところである。

組合：2024年10月1日以降、水郡線統括センターでは、車両担当の社員が土日不在となり、これまで対応出来ていたことが対応出来ない状況が発生している。

会社：台風など予見できる事については、事前に泊りの体制を組むことはある。しかし、突発的に発生する事を想定しての要員配置を行うことはしない。

組合：呼び出し前提となる事で復旧に向け、より多くの時間を要してしまう。

会社：必ずしも呼び出しが遅いとも言えない。発生場所によっては、居住地から駆け付ける事で、早く対応できる事もある。

組合：休みでの呼び出しが前提の体制は問題である

会社：突発的に発生する事を想定しての要員配置を行うことはしない。

**社員を道具の様に使用する会社の姿勢は到底認められない！
安心して働ける職場を目指して、ともに声を出そう！！**